

樋口 潤一 氏（45歳）

<経歴>

移住前は東京に住んでいて、博物館にあるような、昔の生活の中で使用していた道具や祭事の調査研究とデザイナーをやっていました。2019年から移住し、県の職員として里山里海研究所の研究員をしています。

<移住した理由>

きっかけは就職です。今の職場の研究員の研究分野が4つあって、そのうちちょうど文化の分野が空いたので知り合いの勧めで受けました。任期が5年のため移住しました。

<移住までの流れ>

ずっと調査やデザインをフリーでして、少し行き詰まりもあった時期に、県で、いろんな面白い素材があるが、何かを始めるに至っておらず、調査しながら地元のために取り組みなさいという内容の募集があった。いいなと思って受けてみて、今こういうことをしている。

<移住して思うこと>

ここの研究所に研究員に助言するアドバイザーがいて、その知人がたまたま東京にいて、今度福井県で募集があると教えてもらい知りました。

実家が大阪だったので、少し距離が近くなると思ったのと、関東での生活に疲れていたのもあった。

福井市に訪れたのは試験が初めて。嶺南（若狭）については、実家が大阪だったので、京都に海水浴に来た時とかにちょこちょこ寄っていた。

今まで東京にいたときは、仕事がフリーだったので、生活が安定しなかったが、県職員になって収入が安定しつつ、仕事内容が自分のやりたいこととマッチしていた、やりたいことがそのまま生活を安定させたままできるというのが一番いいかな。あとは通勤について、最初は敦賀に住んでいて通っていたんですけど、行き帰りの風景がとにかくきれい。行きは晴れると本当にきれいな湖が見えるし、帰りは夕日に光る三方五湖がきれい。日が暮れたとしてもでっかい月が山にばーんとあるのがほんと毎日毎日風景に飽きることない。

<地域とのつながりについて>

住んでいる地域というよりは、漁業組合の方に話を聞いたり、船に乗らせていただいたりして良い関係。職場の人とも仲良くやっています。

<まちでの暮らしについて>

5年毎に更新試験を受けなければいけない。今回は受かったので後5年入れる。その5年後にもまたここに住んでいたいと思えるようにこれからも頑張って仕事をし、若狭町を知っていきたい。これからも引き続き若狭町とは繋がりだけでももっていきたい。

<移住を検討されている方に一言>

いっぺん来てみてほしい！新しいことが一緒にできるような人が来てもらえるととても嬉しい。一緒になにか新しいことができるといいなと思います。

2023, 12, 18 第一回インタビュー